

# 記者ノート

2014

■ 2 ■

秋吉さん自身は少女漫 けていけるものと期待し 稲葉さん本人が出席する 画家になる夢を持って ていたのに」と落胆す 予定だった。

同窓会は、稲葉さん が 同窓会長の横井義一さ ん(モ)は「高校時代から 二十三歳での文壇デビュ

学校でも注目されてい た。授業では級友につい て書いた文章に、クラス 中からため息が漏れたこ ともあった。

## 作家・稲葉真弓さん死去(愛西出身)



昨年9月、津島高で講演を終えて歓談する 稲葉真弓さん(左)と同級生の鶴飼保さん(右)提供

### 稲葉真弓さんの歩み

- 1950年 佐屋町(現愛西市)生まれ
- 68年 津島高校を卒業
- 73年 デビュー作「蒼(あお)い影の傷みを」が女流新人賞
- 92年 「エンドレス・ワルツ」で女流文学賞
- 95年 映画「エンドレス・ワルツ」公開(若松孝二監督)
- 「声の娼(しょう)婦」で平林たい子賞
- 2008年 「海松(みる)」で川端康成文学賞
- 11年 中日文化賞、「半島へ」で谷崎潤一郎賞
- 14年4月 紫綬褒章受章
- 8月 64歳で死去

愛西市内佐屋町出身の作家稲葉真弓さんが八月、六十四歳の生涯を閉じた。数々の文学賞を受賞し、晩年は生まれ育った西尾張の地域で後進の育成にも取り組んだ。今月八日には東京で出版関係者によるお別れの会が開かれた。地元にも稲葉文学のファンは多く、今後は生まれ育った海部地域で功績を伝えようとする動きが本格化しそうだ。

# 功績故郷で語り継ぐ

東京に飛び出して作家として成功しながらも、故郷の人たちに目を注いだ稲葉さん。その芸術をはぐくんだ海部津島の風土とともに、長く語り継がれてほしいと思う。

(南拡大朗)



東京の稲葉真弓さんの自宅で見つかった高校時代のノートなど(津島高同窓会提供)